



〒573-1013 枚方市禁野本町 2-14-1 Tel (072) 847-2821 Fax (072) 847-2825
ホームページ <http://www.city.hirakata.osaka.jp/freepage/gyousei/byouin/>

集団災害訓練を実施しました



枚方市民病院は 11 月 17 日、集団災害訓練を実施しました。

集団災害（多数傷病者同時発生事故）は地震・台風等の自然災害、各種集団中毒、爆発・火災、航空機・列車事故など、その規模はもちろん、傷病者の形態もさまざまで、とりわけ阪神淡路大震災や地下鉄サリン事件などを契機にその対応への関心が高まりました。枚方市民病院は、大規模災害が発生したと想定し、限られたスタッフや医薬品等の医療機能を最大限に活用して、可能な限り多くの傷病者に治療にあたるためのトリアージ訓練を行いました。

トリアージとはフランス語の trier からの派生語で、「選別する」という意味があります。

トリアージは 1800 年代の初頭ナポレオンの時代にフランス戦場で負傷した兵隊の処置優先順位をつけるために考えられました。その後 1900 年代に入って、アメリカの救急医療現場で救急専門医が救急外来で多数の救急患者を診察治療しなければならない状況になり、トリアージの手法が採用され効果を発揮するようになったといわれています。

集団災害発生時の混乱状況下では通常どおり順番に診察・治療しては最重傷者の治療が遅れてしまうほか、確実に救命可能な重傷者の治療ができなくなる可能性があります。

このような問題を解決するために、救命の可能性が高いものから順に救護、護送、治療にあたるための優先順位を決めます。優先順位は、傷病の緊急度や重症度から死亡郡（黒 0）、重症郡（赤 Ⅰ）、中等症郡（黄 Ⅱ）、軽症郡（緑 Ⅲ）の分類に従ってトリアージタグが付けられ、必要な処置・治療・搬送が行われます。

市民病院の訓練では職員がさまざまな症状を訴える患者の役を担当し、医師がトリアージを行い、適切な診察場所へ移送する訓練が行われました。

トリアージタグ



白内障の症状と治療

眼科副部長 喜田 照代

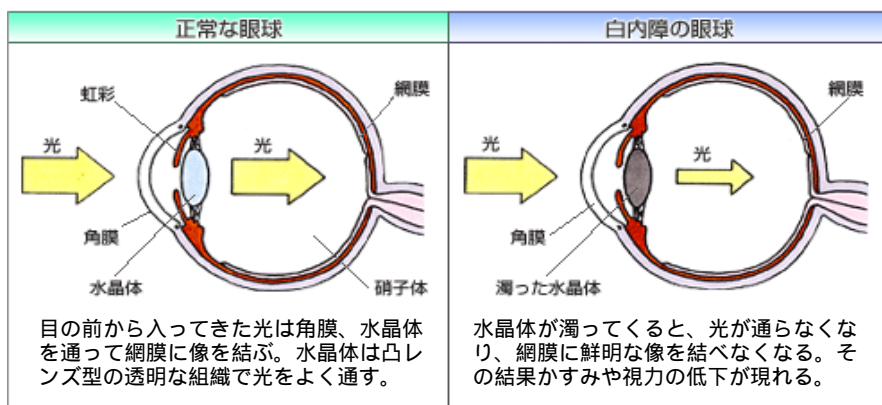


図 1

白内障は、水晶体（レンズ）が濁ってくる病気です。人の目はよくカメラにたとえられますが、カメラのレンズに相当するのが水晶体です。正常な水晶体は透明で光をよく通します（図 1 左）。

白内障はいろいろな原因で起こりますが、最も一般的なものは加齢によるものです。主な症状としては「目がかすむ」といったものですが、ものがかすんで見えにくい。まぶしい、明るい所で見えにくい。一時的に近くが見えやすくなる・眼鏡が合わなくなる。などがあります。このような症状があれば白内障の疑いがある

ります。白内障は目の中のレンズ（水晶体）自体が濁るわけですから、眼鏡を取り替えても症状は変わりません（図 1 右）。

個人差はありますが、誰でも年をとるにつれ、水晶体は濁ってきます。また、アトピー性皮膚炎や糖尿病などの合併症として若い人の発症が増えています。その他、母親の胎内で風疹に感染するなどが原因で生まれつき白内障になっているケースや、目のケガから白内障を起こす場合などがあります。

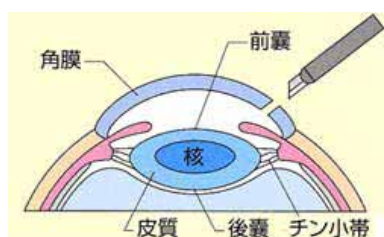
白内障だけでは痛みや充血はありません。一度濁った水晶体は薬では治りませんので、見えにくいなどの症状が進んで日常生活に不自由を感じるようであれば手術が必要になります。白内障の手術を受ける前には、手術が問題なく行えるかを調べ、目に合った眼内レンズを選ぶためにさまざまな検査を行います。

現在、白内障の手術は主に、濁った水晶体を超音波で砕いて取り出し（超音波水晶体乳化吸引術・図 2）、人工のレンズ（眼内レンズ）を入れるという方法です。また、白内障が進行し過ぎて水晶体が固くなっている場合は水晶体を丸ごと取り出す方法で行うこともあります（水晶体嚢外摘出術）。

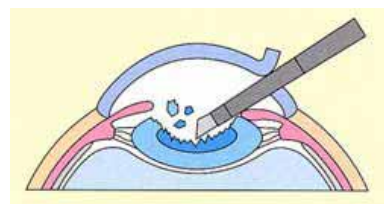
手術を考える時は、私たち眼科の医師とよく相談してください。わからないことがあれば、遠慮なく担当医にお尋ね下さい。

参考資料「白内障の症状と治療」より

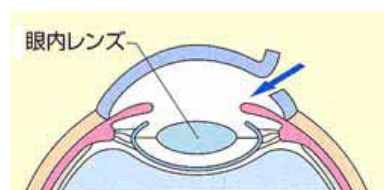
図 2



眼球を切開し、水晶体の前囊を切り取る。



水晶体の核と皮質を超音波で砕き、吸引して取り出す。後囊とチン小帯は残す。



残した後囊の中に、眼内レンズを挿入する。

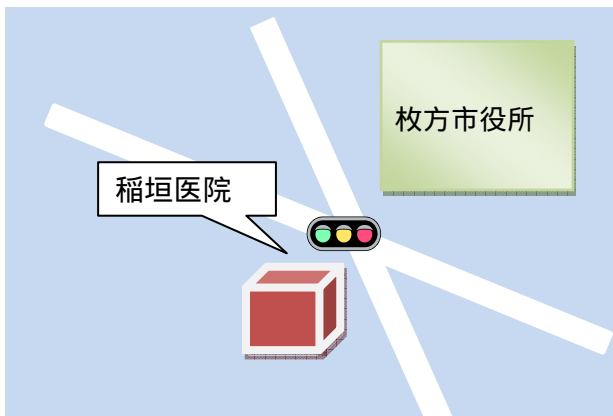
地域医療連携訪問vol.2

稲垣先生が医師を目指され、開業された経緯をお聞かせ下さい。

当院は、枚方市役所本館の前に、1945年父が開業、1998年に管理者が私に代わりました。父の開業以来一貫して内科を主に地域医療に徹しているクリニックです。関西医大の研修医である娘も呼吸器内科を志望しており、祖父から4代続く内科医の家系となります。

先生ご専門の診療について何かありましたら、

専門は糖尿病・アレルギー及び高コレステロール血症や痛風等の代謝性疾患です。これらの疾患は最近の生活習慣・環境を反映して、その数が増え続けています。我々が日々努力し、理想としている快適で便利な生活が、実は運動不足、肥満や閉鎖環境で抵抗力の弱まる生活環境になっているのは皮肉なことで、正しい方向に是正する必要があります。専門の糖尿病は、食事と運動が治療の基礎であるため、最近の健康志向ブームの余波で、しばしば誤った健康法や、効果に疑問のある健康食品の問題に遭遇しますが、そのような時は、常に患者さんと一緒に問題点を考え、一番ベストな解決法を見つけるようにしています。



稲垣医院

稲垣 勝則 先生



稲垣医院として、目指されているものがありませんでしたらお聞かせください。

今後は、少子・高齢化、核家族化、長期入院抑制等などの社会問題のため、訪問医療を中心とした『出かける医療』を我々開業医は医師会を軸として担っていかねばと感じています。個人の本院では、先端・濃厚医療は無理ですが、気軽に小廻りの効く、専門性を持ったコンビニのようなクリニックでありたいと願っています。

市民病院への要望などがありましたらお聞かせ下さい。

内科医としては、常にかからだ全体を見渡しておかなければならないと心に銘記しており、専門外の問題が見つかったときは、直ちに適切な専門医への紹介が必要で、市の基幹病院である市民病院との連携の更なる強化を強く感じています。また、産科・小児科・救急医療の崩壊を、市民病院と医師会会員の協力で未然に防ぐ必要が直近に迫っていると思いますので、皆様のご理解とご協力をお願い致しますと考えます。

医)春陽会 稲垣医院

〒573 - 0027 枚方市大垣内町 1 - 1 - 5

TEL.072 - 841-2166

【診療科目】内科、アレルギー科
小児科、放射線科

	月	火	水	木	金	土
9:00 ~ 12:00						
17:00 ~ 19:00						

病院トピックス

第 17 回糖尿病ウォークラリーに参加し、みごと「優勝」に輝きました

10月18日(日)花博記念公園鶴見緑地で大阪糖尿病協会、大阪糖尿病協会顧問医会、大阪糖尿病協会顧問栄養士会等主催の「第17回糖尿病ウォークラリー」が開催されました。

本院の「糖尿病の患者会ひらかた会」の皆さん8人と内科の有島医師・姜医師や看護師、検査技師、管理栄養士など7人のスタッフも参加しました。このウォークラリーに「ひらかた会」は毎年参加しており、当日は素晴らしい秋空の下、全体として約450名の参加者がありました。

メンバーは4kmのコースを選び、地図を頼りに広い花博記念公園をウォーキングしました。

途中で、花の名前や野鳥の種類を質問するクイズを解いたり、お弁当を食べたり、また、病気に



チェックポイント地点で問題を解く参加者

関する問題を解いたり患者様とスタッフがふれあい、和やかなウォーキングになりました。

参加者全員が力を合わせてゴールし、今年は4km部門の「優勝」に輝きました。大賞に抱き合っ喜び、疲れも吹き飛ばすとともに、清々しく自然と運動に親しんだ1日となり、参加した患者様からも「楽しいひと時が過ごせました」とうれしい言葉もいただきました。「健康に気をつけ、また来年も参加しましょうね」を合言葉に解散した有意義なウォークラリーでした。



第5回TQM活動発表大会を開催しました

11月28日(土)市立保健センターで「第5回TQM活動発表大会」を開催しました。TQMとは「総合的品質管理」を意味し、医師・看護師・医療技術職員など、院内で働く様々な職種メンバーが職場や課題ごとにチームを結成し、業務の改革・改善を進める取り組みです。

本院では毎年1回、活動発表のための大会を開催し、取り組み内容の共有化とともに、すぐれた取り組みを表彰して、活動の活性化を図っています。今年は活動を開始して5年目の大会となり、院内から9チーム、ゲスト1チーム(北海道・岩見沢市立総合病院)の10テーマの活動発表と、4つの定着化報告が行われました。

当日は、来賓を含め194人の参加があり、各チームの工夫をこらした熱心な報告に耳を傾けました。今年の優秀賞2チームは、心電図モニターの効率的な管理により苦痛をなくすことをめざした取り組み、点滴業務の煩雑化を改善する取り組みでした。



過去に多かった収益増加をめざすテーマから、「医療の質の向上」に踏み込んだ発表テーマが表彰されるなど、本院のTQM活動は新たな水準へチャレンジしています。